
星新一なんて作家知らないんだから //

悲劇のM

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

星新一なんて作家知らないんだからノ

【コード】

N3822F

【作者名】

悲劇のM

【あらすじ】

筆者の部屋に置いてある目覚まし時計です。小説書いてる最中にも遊んでとじやれてきて鬱陶しいです（＾p＾）

(前書き)

別サイトで『星新一の作品に似ている』と言われた作品なんです。指摘されたところを直さなかったのはめんどくさいなんて理由じゃないんだからね／＼

太陽が東の空に昇っているのをカーテンの隙間から確認し、主人の男を起こすことからその少女の朝は始まる。

少女といってもその身長は十センチほど。そして普通の少女をその大きさにしたような外見である。

宝石のように透き通った瞳は吸い込まれそうなほどに大きく、白磁のような肢体が彼女のために作られた純白のワンピースから覗く彼女を普通の少女の大きさにしたら、周りには常に男がいるだろう。まだ朝早いというのに眠そうな様子が無いのは、彼女が目覚まし時計という『物』だからである。彼女の仕事は正確な時間を告げたり、寝ている主人を起こしたりすることだ。今から彼女が行うのは後者である。

主人が寝ているベッドのすぐ傍の台にいる彼女は、主人の枕元にジャンプした。着地するなり、主人の耳元で叫んだ。

「ほら、早く起きなさいよ！」

身体が小さい分声も小さいので、今の大声で普通に聞こえるほどだ。それでも男は目を覚ます。目をこすりながら、少女に悪態を突いた。

「もつと優しく起こしてくれよ、耳元で『起きて、ご主人様』でいいからさ」

「うるさい、バカ」

少女は見せ付けるように頬を膨らませた。

男はベッドから台所に立ち、簡単な朝食を作り始めた。こじんまりとした部屋に、卵がやける甘い匂いやトーストの香ばしい香りが漂う。

しかし、少女がその匂いにそそられることはない。彼女は食べるという行為はしないのだ。

彼女のエネルギー源は、一本の単三電池と主人の愛情である。

やがて朝食が全て作られた。男はテーブルにそれを並べ、食べ始めた。

無言で食べ終わると、男はカラスもびっくりの速さでシャワーを浴びた。その後白いバスローブ姿で出てきて、少女に言いつける。

「十一時に用事があるから、十時のバスに乗らなきゃいけないんだ。九時ごろに起こしてくれ」

テレビのニュース番組のデジタル時計は現在7時を示している。あと二時間は寝られた。

「一生寝てればいいのよ」

少女の態度を了解と受け取った男は、テレビも消さずに、バスローブを纏ったままベッドに寝そべった。

男が目を覚ますと、カーテンの隙間からは強烈な西日が差し込んでいた。点けっぱなしだったテレビの時計を慌てて確認すると、既に十一時半。男は大急ぎで身支度をしながら、少女を叱り飛ばした。

「何で起こしてくれなかったんだよ！」

「あたしに命令口調で物を言うからよ」

「まったく……」

やるせない思いを胸にしまい込み、そのまま支度を続けた。その時、テレビでアナウンサーが速報を告げた。

「今入ったニュースです。今日午前十一時頃、
県 市で
バスが××橋から落下。車体は炎上し、生存者の見込みは今のところ
」

男は目を丸くした。そのバスは自分が乗るはずだったバスである。もし自分が乗っていたら。男は背筋が凍る思いだった。同時に、自分を起こさなかった少女に感謝した。

「ありがと、もしあのまま行ってたら俺も死ぬところだったよ」
すると、少女はたちまちに頬を朱に染めた。

「あ、あんたがいなくなっ、あたしが寂しくないわけじゃないじゃない
い……」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3822f/>

星新一なんて作家知らないんだから//

2010年10月15日20時22分発行